

Europe Indicators

発表日: 2022年11月17日(木)

欧州経済指標コメント: 10月英国消費者物価

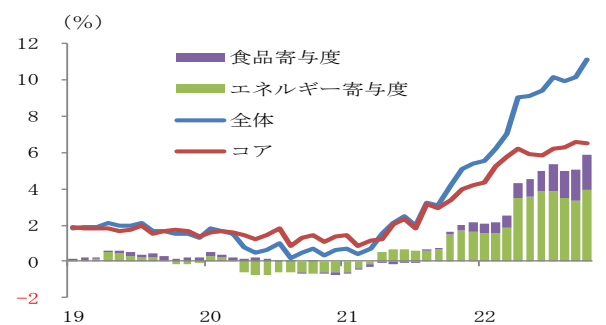
~41年振りの高インフレ~

第一生命経済研究所 経済調査部

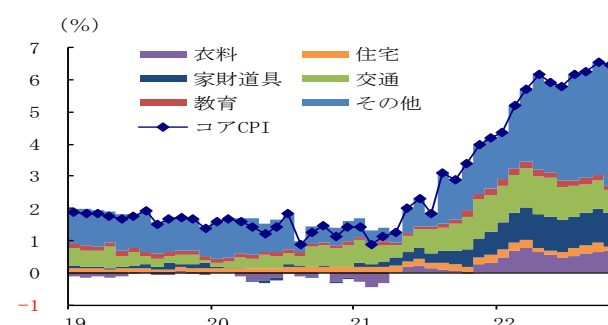
主席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

- 16日に発表された10月の英国の消費者物価は、前年比+11.1%と前月（同+10.1%）から上昇率が加速し、1981年10月（同+11.2%）以来の高水準を記録した。コア物価（前月：同+6.5%→今月：同+6.5%）とたばこ価格（同+8.3%→同+8.3%）が前月と同じ上昇率となるなか、エネルギー料金の上限引き上げの影響でエネルギー価格（同+49.6%→同+59.0%）の上昇率が再加速したほか、食料品価格（同+14.5%→同+16.2%）が1997年9月（同+17.6%）以来の水準に加速し、全体を押し上げた。発表元の統計局は、エネルギー料金の引き上げ幅が圧縮されなかった場合、10月の消費者物価が同+13.8%程度に達していた可能性があるとして指摘している。
- 10月からの半年間はエネルギー料金が凍結されるため、今後の消費者物価はピークアウトに転じることが予想される。だが、今月の物価の上振れからは、ピークアウト後も物価の沈静化には、より長い時間が掛かる可能性が示唆される。コア物価が高い伸びを維持し、労働需給逼迫などを反映しやすいサービス価格の上昇が目立つ点が気掛かり。来年4月以降はエネルギー料金の凍結が解除され、追加の政策対応が行われな限り、エネルギー価格が再上昇する恐れがある。但し、足許で原油や天然ガス価格の上昇が一服しており、このまま商品市況が大幅に加速しない限り、来春以降の押し上げ幅は比較的軽微にとどまる可能性が出てきた。

■英国：消費者物価の推移（前年比）

注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギーを除く
出所：英統計局資料より第一生命経済研究所が作成

■英国：コア消費者物価の要因分解（前年比）

注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギーを除く
出所：英統計局

■英国の消費者物価（%）

	2021				2022				2011											
	4Q	1Q	2Q	3Q	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月					
消費者物価 (前期比)	2.2	1.4	4.3	1.9	0.5	-0.1	0.8	1.1	2.5	0.7	0.8	0.6	0.5	0.5	2.0					
消費者物価 (前年比)	4.9	6.2	9.2	10.0	5.4	5.5	6.2	7.0	9.0	9.1	9.4	10.1	9.9	10.1	11.1					
コア消費者物価 (前年比)	3.9	5.1	6.0	6.3	4.2	4.4	5.2	5.7	6.2	5.9	5.8	6.2	6.3	6.5	6.5					
食料品 (前年比)	2.6	5.1	8.3	13.4	4.2	4.3	5.1	5.9	6.7	8.6	9.8	12.6	13.1	14.5	16.2					
アルコール (前年比)	2.3	1.8	1.3	2.9	3.0	1.4	1.5	2.5	1.2	1.7	1.2	2.8	2.9	2.8	4.0					
たばこ (前年比)	4.7	6.0	8.2	8.2	4.8	5.1	5.7	7.1	7.8	8.5	8.3	8.1	8.1	8.3	8.3					
エネルギー (前年比)	24.1	24.5	54.1	53.1	24.5	23.2	22.7	27.6	52.1	52.8	57.3	57.8	52.0	49.6	59.0					
住宅用燃料 (前年比)	23.0	23.6	69.9	70.1	22.7	22.9	23.1	24.8	69.6	69.9	70.2	70.3	69.7	70.1	89.7					
自動車燃料 (前年比)	25.6	25.6	35.6	34.1	26.8	23.6	22.3	30.7	31.4	32.8	42.3	43.7	32.1	26.5	22.2					

注：消費者物価の前期比は季節調整前。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

